## 高渡館跡(たかわたりたてあと)

所 在 地:常陸大宮市高渡町 2360-1 ほか 調査期間:令和5年4月1日~6月30日

調査面積: 2,442 m<sup>2</sup>

委 託 者:国土交通省関東地方整備局

久慈川緊急治水対策河川事務所

調査原因: 久慈川緊急治水対策プロジェクト

調査機関:公益財団法人茨城県教育財団(常陸大宮事務所)

Tel: 029-225-6587 https://www.ibaraki-maibun.org





HP

**Twitter** 

## 遺跡の概要

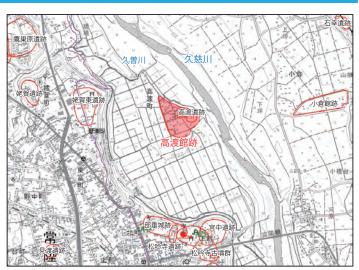
高渡館跡は、久慈川とその支流である久曽川の合流点に 近接した島状の微高地に立地する遺跡です。現在でも土 塁状の高まりや、堀の痕跡の可能性がある窪みが見られる ことから、中世の館跡と想定されています。南方約 800m には部垂城跡が位置し、関係性が注目されます。また、 江戸時代以降では、高渡(高和田)河岸と呼ばれる、舟運 で荷揚げや積替えなどを行う舟着場があったことが記録に残 っており、河川交通の要衝であったことがうかがえます。

## 調査の成果

今回の調査では、古墳時代・平安時代の竪穴建物跡や、室町時代の堀跡・土坑などを確認しました。古墳時代以降、断続的に営まれた集落は、平安時代に最も大きくなったものと考えられ、文字の書かれた墨書土器や、東海地方で作られた高級な器である灰釉陶器などが出土しました。川が近いため、網の錘である管状の土錘が多く出土したことも特徴です。室町時代の堀跡からは、常滑窯や瀬戸窯の陶器と鉄鏃が出土し、近くの土坑からは中国の龍泉窯で作られた青磁の碗が出土しました。館に伴う建物跡は確認できませんでしたが、堀跡が確認できたことや、室町時代の遺物が出土したことは、当遺跡の性格を考える上で重要な成果となります。



調査の状況(南から撮影)



高渡館跡と周辺遺跡(茨城県遺跡地図に加筆)



直線的に延びる堀跡